

豊田民報

日本共産党豊田市委員会
◆豊田市日之出町一六六
Tel: 三三・四七二
毎週一回発行

矢作川の水位低下対策事業に着手

日本共産党もとむら衆院議員 予算確保に協力

矢作川の「鵜の首」地区では、豊田市街地を流れる上流部と比較して川幅が狭い狭窄部の抜本的対策事業が始まります。その事業の着手式が3月21日、市内で行われ、国会議員や県会議員、行政関係者らが参加しました。参加した、もとむら伸子衆院議員（日本共産党）のレポートを引用します。

3月21日、着手式に参加しました。

東海豪雨の際、鵜の首狭窄部の影響もあって上流の豊田市街地区間で大規模な浸水被害が発生したことをうけ、中下流の対策とともに、狭窄部の開削、河道掘削など、やっと着手となった事業です。

着手式での挨拶では、日頃から住民の皆様の命を守る、産業拠点を守るためにご尽力いただいている皆様への心からの敬意と感謝を申し上げると同時に、おおむね10年かかるという



原発ゼロ、再稼働反対を
求める金曜行動ご案内
4月9日（金）
午後6時～
豊田市駅西側

主催 さよなら原発豊田市民行動連絡会



国交省中部地方整備局で説明を受ける、もとむら議員（左中央）。昨年7月、岡崎出張所にて。左奥は根本みはるの市会議員

うことで、少しでも前倒しできるように党派を超えて予算を確保するために力を合わせていく決意を述べました。
豊田市長からも超党派へ取り組みへの期待が寄せられました。
（衆院議員 もとむら伸子）

3月議会

新年度予算の問題を討論 根本みはる
新型コロナ対策はあらゆる手立てで人規模に検査を

松坂屋撤退でまた税金

22億6200万円

豊田市駅西口開発事業において、市はそこの撤退で豊田

まちづくり（株）に48億円もの巨額の貸付けをおこなってきました。今年秋の松坂屋の撤退に伴い、未返済の債務分の22億6200万円を出資し、さらなる税金投入を重ねる点は問題です。

出資の方向性の決定には、市議会への説明も、市民に対して、不十分な対応と市民不在と言わざるを得ません。今回の松坂屋撤退を契機に、再開発事業のあり方を根本的に検討し、見直すべきです。

原発関連交付金

総額で 5億4040万円

原子力発電関係の電源立地地域対策交付金は、予算分と受け取り始めた時から合計で5億4040万円にもなります。危険な交付金は全額返納すべきことを繰り返し指摘します。

介護予防事業で
市場化・効率化が加速

ソーシャル・インパクト・ボンドを活用する介護予防事業が始められます。地方税の原則をねじ曲げた「企業版ふるさと納税」を利用する点は問題。

介護予防の事業者選定でも、検証・評価でも市の関与が明確ではありません。市が責任を持つべき福祉分野を民間企業にゆだね、市場化・効率化が加速する点は危険です。

豊田スタジアム 市の持ち出し
13億6300万円

使用料収入などを差し引いても、市の持ち出しは13億6300万円にもなることが答弁により分かりました。偏重し続ける使い方に、コロナ禍で生活困窮に直面する市民の理解はとても得られないものです。



根本みはる

今週号は、片面編集です。